

大鏡 京都市

史書を訪ねて



永祿二年八月二十八日に天皇の位におつきになりました。時に御年十七歳でいらつしました。寛和二年六月二十二日の夜、嘆かわしゅう、ございましたのは、誰もお知らせにならず、こつそりと花山寺にいらつして、ご出家入道なさいましたことでした。時に御年十九歳でいらつしました。ご治世は、わずかに二年間で、その後、法皇として二十二年間、在世になりました。

『大鏡 全現代語訳』（保坂弘司、講談社学術文庫）より

大鏡

平安時代の摂関政治で最盛期を迎えた藤原氏の栄華を、人物を中心とした紀伝体で描く。190歳の天宅世継と180歳の夏山繁樹が昔話を語る対話形式をとり、語りの場は1025年に設定されている。天皇は文徳から後一条、藤原氏は冬嗣から道長を対象とする。道長の栄華を説くことが主眼で1070~1080年前後の成立とみられる。平安男性文学の最高傑作とされる。作者には諸説ある。

藤原氏の栄華 客観的に描く



解く

桜井宏徳

大妻女子大准教授

『大鏡』は、皇族以外で初めて摂政になった藤原良房の父冬嗣に始まり、娘3人を3代続けて天皇に嫁がせ、「一家三后」を実現した道長の時代までを描く。外戚関係を権力の源泉とした摂関政治のスタートから頂点までを振り返る狙いがあったと思われる。

内容は歴史的事実をおおむね踏襲し、藤原氏の栄華を客観的にとらえている。当時の貴族による日記など、良質な史料にも恵まれたようだ。

人物ごとに章を立てる構成の中で、花山天皇は特殊な存在だ。本人以外の章への登場が目立つ。2年で退位させられた悲劇と数々の奇行が伝えられていたからだろう。道長にかかわるエピソードも多い。道長の母と花山天皇の乳母は姉妹で、2人は若い頃からの遊び友達だったようだ。

安倍晴明は道長側近の陰陽師で、花山天皇の運命を見届ける人物として登場する。晴明は退位を天命と受け止めたのではない。花山天皇は退位後を、より思い通りに生きたようだ。復権を目指した形跡もない。

平安時代は政争が激しく、敗者の怨霊は祟ると考えられていた。『大鏡』は北野天満宮に祭られる菅原道真の怨霊にも触れている。花山天皇は例外だった。

*「史書を訪ねて」は、「日本書紀を訪ねて」と交互に火曜日に掲載します。

■ Culture

花山天皇退位 見届ける晴明

平安時代の984年に即位した花山天皇はわずか2年後、19歳で退位した。娘を天皇に嫁がせて外戚関係を結び繁栄を競う。こうした藤原氏内部の権力争いが天皇をも翻弄した。

時の権力は藤原兼家が握っていた。病死した長兄伊尹の後継を次兄兼通と争い、いったんは敗れたが復権する。娘詮子と先帝円融天皇との間には懐仁親王

(後の一条天皇)が生まれた。花山天皇の母は伊尹の娘。兼家は孫の懐仁親王の即位を望んだ。

内裏から花山

寺、今の元慶寺へは兼家の息子道兼が同道する。八日も舞臺し、お弟子としてお仕えいたしましよ。と約束し、花山天皇がためらう度に八帝位の御しるしの神璽も宝剣もすでに皇太子の御方にお渡りになってしまいました。八いまこの機会をおぼしむに、なつたら、ひょっとしてご出家のじやまも出てまいるであらう。と説いて急がした。道兼は出家を見届けると立ち去り、花山天皇は氣付く。八さては私をひきましたのであったなあ。

『大鏡』で、花山天皇は内裏を発つて間もなく、陰陽師安倍晴明の家の前を通る。八天皇が退位になると占われる天変

があったが、もつすでにご退位が実現してしまつたと見えるぞ。という晴明の声を聞く。

大東文化大東洋研究所兼任研究員の山下克明さん(67)は「実際にこうした場合があつたかどうかはわからないが、『大鏡』が成立した頃、晴明は既に伝承化されていた」と言う。

701年制定の大宝律令は、官庁の一つとして陰陽寮を設け、陰陽師を吉凶を占う官僚と位置づけた。「疫病や天災の原因を占い、『災りではないか』

となれば呪術や祭りで対処する。平安貴族にとって最も身近な『宗教家』になっていった」(山下さん)。

◆「大鏡」とその時代

- 821年 藤原冬嗣が右大臣に
- 850年 文徳天皇即位、母は冬嗣の娘
- 866年 藤原良房が摂政に、皇族以外で初
- 978年 藤原兼家が右大臣に
- 980年 兼家の娘詮子が懐仁親王(一条天皇)出産
- 986年 花山天皇退位
- 一条天皇即位、兼家摂政に
- 995年 藤原道長が右大臣に
- 1000年 道長の長女彰子が一条天皇の中宮に
- 05年 安倍晴明死去
- 10年 次女妍子が厩戸親王(三条天皇)の妃に
- 16年 道長摂政に
- 18年 三女威子が後一条天皇の中宮に



晴明神社の本殿前にある「安倍晴明公像」(京都市上京区)

【アクセス】元慶寺へはJR山科駅から徒歩約20分。晴明神社へは地下鉄今出川駅から同10分強。北野天満宮からは花山天皇紙屋川上院、陰陽道ゆかりの大將軍八神社も近い。

晴明は85歳の長寿だった。代々の天皇や藤原氏の実力者に仕え、陰陽師の象徴として語り継がれた。今も小説や映画でイメ

ージは膨らみ続ける。晴明神社宮司の山口琢也さん(50)は「目に見えないものへの怯えは平安時代も今も変わらない。どうす

れば良いのかを示してくれる晴明さんのよきな存在を求めているのでしよう」と話す。『大鏡』での晴明は花山天皇

住宅地の路地の奥にたたずむ元慶寺。江戸時代に再建され、花山天皇
が出家したことを示す「御落節道場」
の石柱がある。天皇は夜、ひっそり
と内裏から寺へと向かった（京都市
山科区で）—河村道浩撮影

